

# CSRマネジメント

## 企業理念・CSR方針

## CSR推進体制

CSR委員会とCSR推進体制

「4つの価値」と「13の指針」に基づくCSRマネジメント

## マテリアリティの特定

マテリアルな側面の特定

## ステークホルダーエンゲージメント

ステークホルダーエンゲージメント

「サステナビリティレポート」の発行

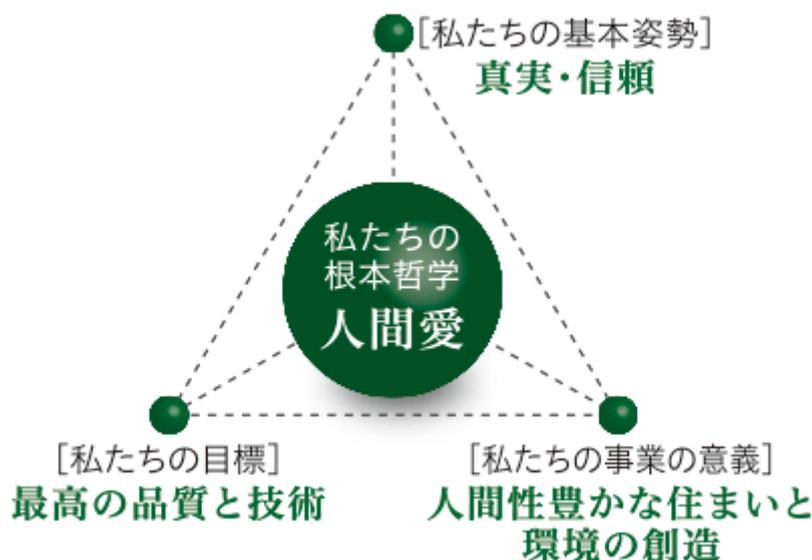
## 対外活動

住環境の質の向上を目指した団体活動および提言活動

## 企業理念・CSR方針

積水ハウスグループでは「人間愛」を根本哲学とする企業理念を制定しています。「人間愛」とは、「相手の幸せを願い、その喜びを我が喜びとする奉仕の心を以って何事も誠実に実践する」ことで、全従業員での討議を経て1989年に制定しました。

### ■ 企業理念（1989年1月制定）



### 人間愛～私たちの根本哲学～

「人間は夫々かけがえのない貴重な存在であると言う認識の下に、相手の幸せを願いその喜びを我が喜びとする奉仕の心を以って何事も誠実に実践する事である。」

#### 【関連項目】

> [企業理念](#) 

そして、その幸せを願う対象となる重要なステークホルダーを「お客様」「従業員」「株主」と定め、お客様満足（CS）、従業員満足（ES）、株主満足（SS）を達成することが当社グループの企業理念を踏まえたCSR方針です。

## CSR推進体制

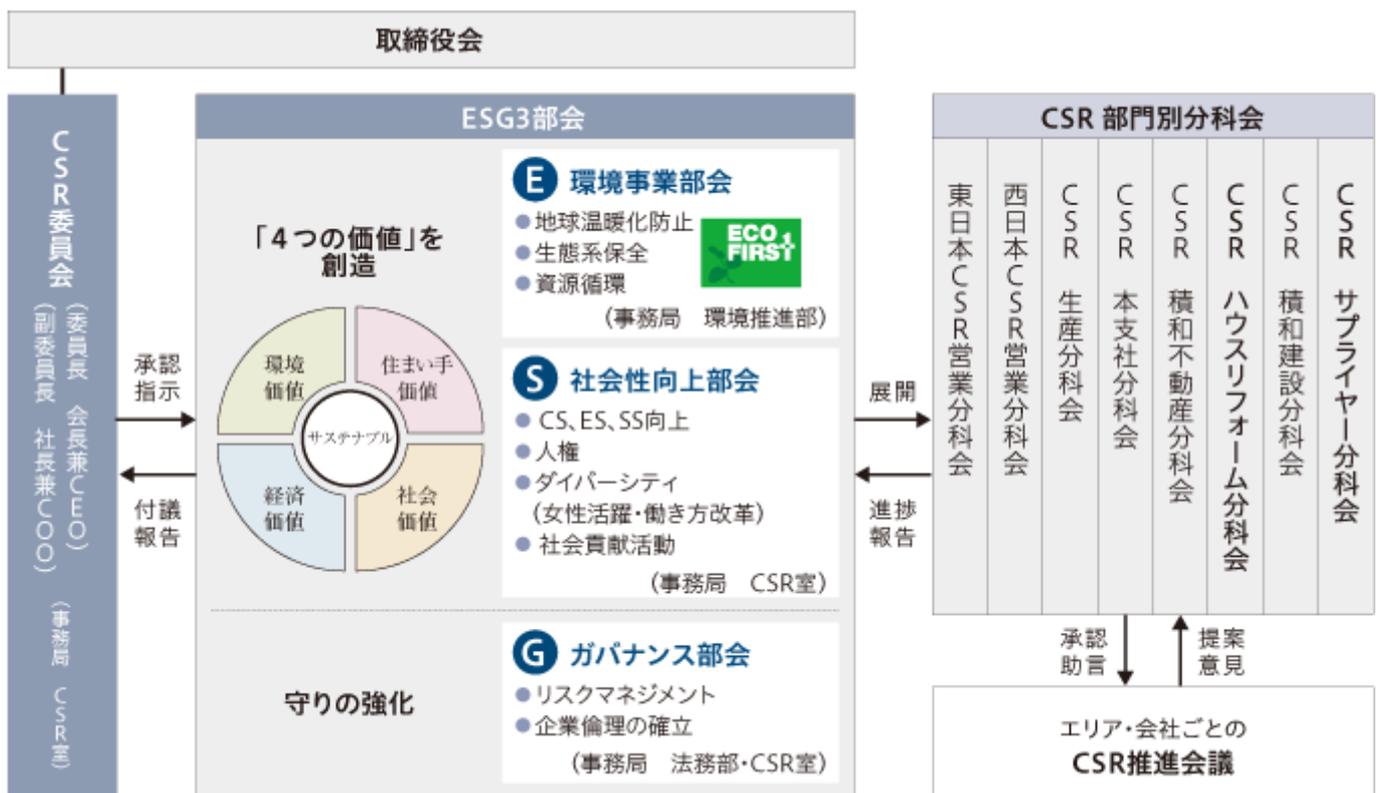
### CSR委員会とCSR推進体制

積水ハウスでは、「社外の目」をCSR経営に取り入れ、現在のCSR活動が社会の常識や期待と合致しているか否かをチェックしながら、その活動方針を定めていくことで、グループ全体のCSRへの取り組みを充実させています。会長兼CEOを委員長として、社内委員のほか、各界の有識者を社外委員として加えた「CSR委員会」を3カ月に1度開催してきました（CSR委員は取締役会の決議により決定）。

2016年度は、環境配慮型住宅「グリーンファースト」を進化させたネット・ゼロ・エネルギー・ハウス「グリーンファースト ゼロ」や「グリーンファーストリフォーム」を積極的に推進するなど、「攻めのCSR」を加速させるとともに、コンプライアンスの徹底や従業員モチベーション・モラルの向上などの「守りのCSR」の両立に努めました。

CSR推進体制を確立して11年が経過し、次のステップへ踏み出そうと2017年に新体制へ移行しました。CSR委員会の傘下には、ESGの3部会（E・環境事業部会/S・社会性向上部会/G・ガバナンス部会）を設け、活動の推進と徹底を図っていきます。緊急度・重要度の高いテーマから優先的に議論し、取り組むべきことを明確にして、分科会で社内への浸透を図っていきます。また、事業所長と連携して事業所内でCSR活動を推進するため、全事業所にCSR推進委員を配置しています。

### CSR推進体制（2017年度から）

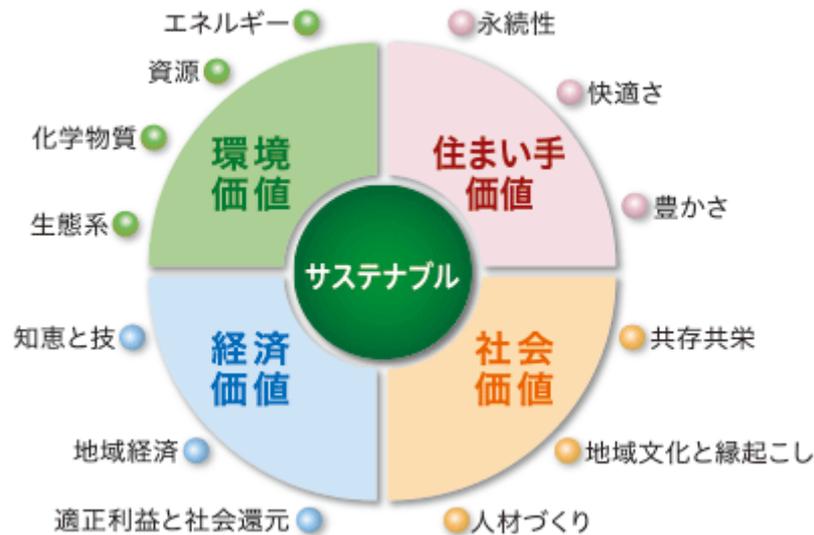


## CSR推進体制

### 「4つの価値」と「13の指針」に基づくCSRマネジメント

CS・ES・SSの三位一体の向上に向けて、「サステナブル・ビジョン」を宣言し、その実現のため、行動指針となる「4つの価値」と「13の指針」に基づいて方向性を定めています。そして、PDCAのサイクルを確実に回すため、社会性目標と環境目標を設定し、結果を検証することで活動内容を毎年見直しています。

#### ■ 「4つの価値」と「13の指針」



社会的責任に関する国際ガイドンス規格であるISO26000は、すべての組織が社会的責任にどのように取り組むべきかの手引として、国際標準化機構が2010年に公表しました。

下表は、積水ハウスの「サステナブル・ビジョン」を実現するための行動指針である「4つの価値」と「13の指針」が国際規格に照らしてどのような位置付けになるかを整理したもので、ISO26000における7つの中核主題すべてにおおむね当てはまることが分かります。今後も「4つの価値」と「13の指針」に基づく活動を推進していきます。

■ 「4つの価値」と「13の指針」とISO26000の関係

積水ハウスの「4つの価値」と「13の指針」			該当するISO26000の中核主題・課題	
価値	指針	内容	中核主題	課題
環境価値	エネルギー	化石燃料に依存しないエネルギー利用の実現	環境	気候変動の緩和及び気候変動への適応
	資源	自然生態系の再生能力を超えない資源の利用	環境	持続可能な資源の使用
	化学物質	自然界に異質で分解困難な物質の濃度を増やしつづけない	環境	汚染の予防
	生態系	自然の循環と多様性が守られるよう配慮する	環境	環境保護、生物多様性及び自然生息地の回復
経済価値	知恵と技	「サステナブル」な価値を創造する知恵と技術の蓄積	コミュニティへの参画及びコミュニティの発展	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 技術の開発及び技術へのアクセス</li> <li>■ 雇用創出及び技能開発</li> </ul>
	地域経済	地域経済の活性化	コミュニティへの参画及びコミュニティの発展	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ コミュニティへの参画</li> <li>■ 教育及び文化</li> <li>■ 雇用創出及び技能開発</li> </ul>
	適正利益と社会還元	適正な企業利益の追求と社会への還元	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 組織統治</li> <li>■ 公正な事業慣行</li> <li>■ コミュニティへの参画及びコミュニティの発展</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 公正な競争</li> <li>■ 富及び所得の創出</li> <li>■ 社会的投資</li> </ul>
社会価値	共存共栄	社会のさまざまな関係者との信頼と共感に基づく共存共栄の関係の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 公正な事業慣行</li> <li>■ コミュニティへの参画及びコミュニティの発展</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ バリューチェーンにおける社会的責任の推進</li> <li>■ 財産権の尊重</li> <li>■ コミュニティへの参画</li> </ul>
	地域文化と縁起こし	地域文化の継承・醸成とコミュニティ育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 消費者課題</li> <li>■ コミュニティへの参画及びコミュニティの発展</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 消費者の安全衛生の保護</li> <li>■ コミュニティへの参画</li> <li>■ 教育及び意識向上</li> </ul>
	人材づくり	「サステナブル」な価値を創出する人材づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 人権</li> <li>■ 労働慣行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 苦情解決</li> <li>■ 差別及び社会的弱者</li> <li>■ 労働における安全衛生 ほか</li> </ul>
住まい手価値	持続性	末永く愛され、時とともに値打ちを高める住まいづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 消費者課題</li> <li>■ コミュニティへの参画及びコミュニティの発展</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 持続可能な消費</li> <li>■ 消費者データ保護及びプライバシー</li> </ul>
	快適さ	穏やか、健やかで快適な暮らしの提供		<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 必要不可欠なサービスへのアクセス</li> </ul>
	豊かさ	永きにわたる豊かさの提供		<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 健康 ほか</li> </ul>

## マテリアリティの特定

### マテリアルな側面の特定

積水ハウスグループは、ステークホルダーや社会の期待に応えながら本業を通じたCSRに注力し、価値を創造することにより、持続可能な発展を目指しています。

ステークホルダーや社会にとって重要なことは何かを常に意識して活動することが、価値創造につながると考えます。

#### 「ステークホルダー」と「社会への影響」に配慮し、マテリアルな側面を特定

2015年に、GRIガイドライン（G4）の特定標準開示項目における46側面のうち、30側面をマテリアルな側面と特定しました。そして2016年には、社会の変化・ニーズなどを踏まえ、「ステークホルダーの評価や意思決定への影響」と「会社の経済、環境、社会影響の著しさ」の両面から再分析し、優先順位付けを行いました。

その結果、19の項目をマテリアルな側面（下図）と特定。CSV戦略にも関連する重要側面として、2017年も継続して取り組んでいます。CSV戦略とマテリアルな側面との関係は[中期経営計画とCSV戦略](#)をご覧ください。

#### マテリアルな側面（重要課題）の特定プロセス

##### 1 GRIガイドライン(G4)の特定標準開示項目における46側面の優先順位付け

優先順位付けにあたっては「ステークホルダーの声や評価」に関する各種調査結果やG4の要求事項と当社グループの理念、中期経営計画などを判断材料としました。

ステークホルダーの評価や意思決定への影響

- お客様へのアンケート調査結果(入居後1年)
- 従業員のガバナンス意識調査結果
- 取引先への調査結果
- SRI等の評価項目
- GRIガイドライン(G4)のSector Disclosureで開示が求められている項目

会社の経済、環境、社会影響の著しさ

- 企業理念/行動規範/企業行動指針/企業倫理要項
- サステナブル・ビジョン
- 中期経営計画
- エコ・ファーストの約束

##### 2 重要課題の妥当性の確認

検討課題の網羅性、バランス、将来的な重要課題の取り込みを社内で検討し、グループ内の承認を得ました。

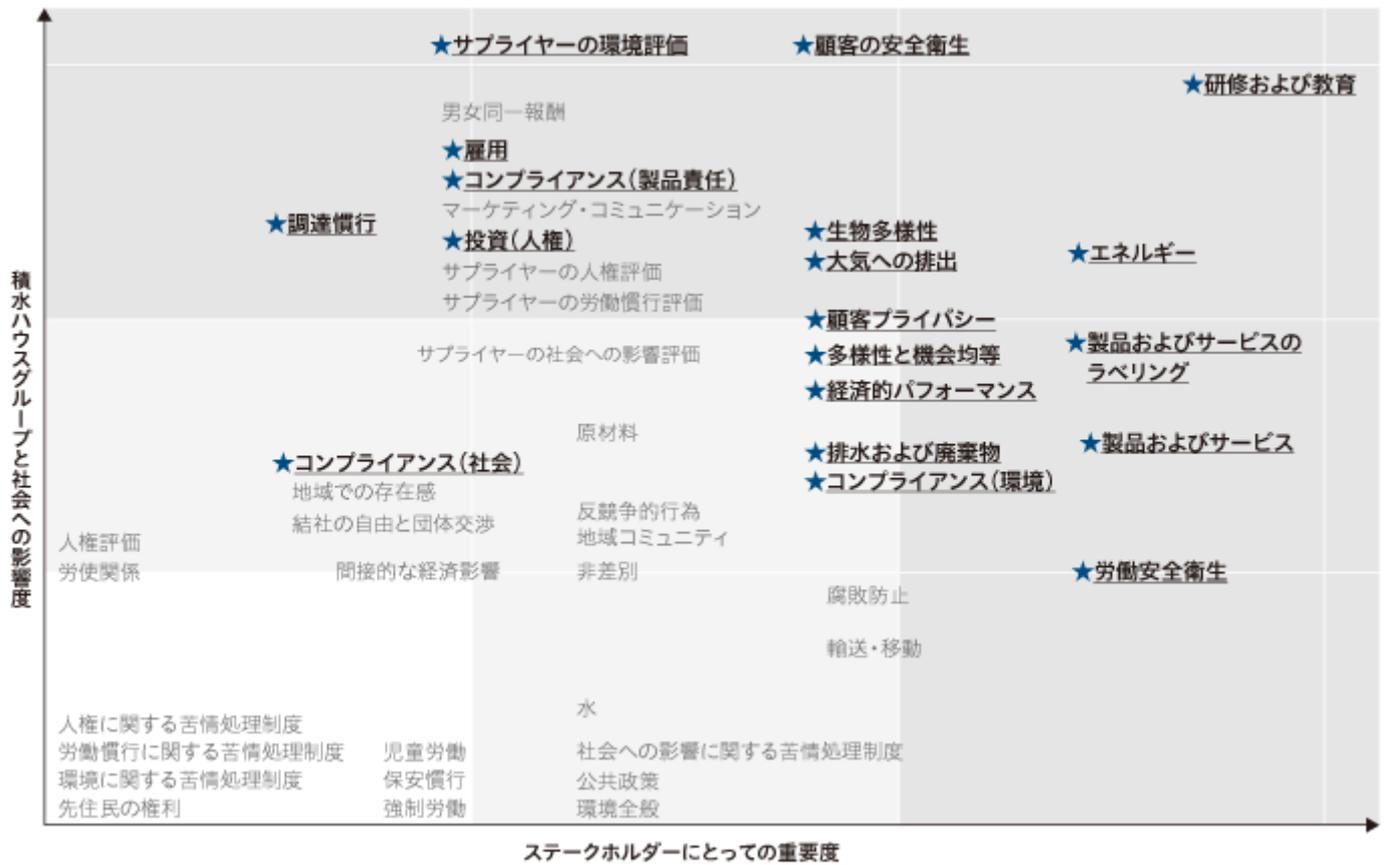
グループ内での承認  
CSR委員会(会長が委員長)で審議し、重要課題について承認を得ました。

##### 3 目標設定とレビュー

19の重要課題に対して、G4の指標を設定し、開示・レビューを進めます。

■ 「ステークホルダー」と「社会への影響」から見たマテリアルな側面（重要課題）

★が特定した19の側面



■ 「19のマテリアルな側面」の影響範囲（バウンダリー）

経済的パフォーマンス	積水ハウスグループ、お客様、従業員、株主・投資家、取引先
調達慣行	積水ハウスグループ、従業員、株主・投資家、取引先、地域社会
エネルギー	積水ハウスグループ、従業員、株主・投資家、取引先
生物多様性	積水ハウスグループ、お客様、従業員、取引先、地域社会
大気への排出	積水ハウスグループ、お客様、従業員、株主・投資家、取引先、地域社会
排水および廃棄物	積水ハウスグループ、従業員、取引先、地域社会
製品およびサービス	積水ハウスグループ、お客様、従業員、株主・投資家、消費者、取引先、地域社会
コンプライアンス（環境）	積水ハウスグループ、お客様、従業員、株主・投資家、消費者、取引先、地域社会
サプライヤーの環境評価	積水ハウスグループ、株主・投資家、取引先
雇用	積水ハウスグループ、従業員、地域社会
労働安全衛生	積水ハウスグループ、従業員、取引先
研修および教育	積水ハウスグループ、従業員、取引先
多様性と機会均等	積水ハウスグループ、従業員、地域社会
投資（人権）	積水ハウスグループ、従業員、株主・投資家、取引先、地域社会
コンプライアンス（社会）	積水ハウスグループ、お客様、従業員、株主・投資家、消費者、取引先、地域社会
顧客の安全衛生	積水ハウスグループ、お客様、消費者、地域社会
製品およびサービスのラベリング	積水ハウスグループ、お客様、消費者、取引先
顧客プライバシー	積水ハウスグループ、お客様、従業員、消費者、取引先
コンプライアンス（製品責任）	積水ハウスグループ、お客様、従業員、株主・投資家、消費者、取引先、地域社会

## ステークホルダーエンゲージメント

# ステークホルダーエンゲージメント

積水ハウスグループの事業活動に影響を与える重要なステークホルダーは事業の性質上多種多様であり、「お客様」「消費者」「取引先」「従業員」「株主・投資家」「地域・社会」です。これらすべてのステークホルダーとの対話を重視し、課題や期待に応えるためさまざまな手段により、日常のコミュニケーションの活性化に取り組んでいます。

### ■ 主なステークホルダーとエンゲージメントの概要

主なステークホルダーと果たすべき責任	エンゲージメント例	提起されたテーマ例	左記への対応
<b>お客様に対して</b> 大切な資産が長く愛着を持って生かされるように、お客様第一の姿勢でコミュニケーションを大切にします。誠実さと奉仕の心をもって接し、お客様の満足を高めます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ <a href="#">お客様アンケート実施</a></li> <li>■ <a href="#">情報誌「きずな」</a>（年2回）、<a href="#">「Maisowner」</a>（年2回）、<a href="#">「gm」</a>（年3回）発行</li> <li>■ <a href="#">「Netオーナーズクラブきずな」</a>運営</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 住宅の長寿命化、「住まい手」価値の向上</li> <li>■ アフターサポートの充実</li> <li>■ 手入れしやすい、使いやすい外構提案・工事</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ まちなみ評価制度の創設・運用</li> <li>■ エクステリア事業成長に向けた全社横断連携の強化</li> <li>■ <a href="#">CSV戦略④アフターサポートの充実による住宅の長寿命化</a></li> </ul>
<b>消費者の皆様に対して</b> 人間性豊かな社会と暮らしの創造に向けて、信頼関係を築けるよう、積極的に情報開示を行います。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ <a href="#">総合住宅研究所「納得工房」</a></li> <li>■ <a href="#">住ムフムラボ</a></li> <li>■ <a href="#">住まいの夢工場</a></li> <li>■ <a href="#">積水ハウス エコ・ファーストパーク</a></li> <li>■ <a href="#">すまい塾</a></li> <li>■ 生活リテラシーブックなどを活用したダイアログの実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 住まいづくりのプロセス、ものづくりの現場の公開</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「住ムフムラボ」での研究メンバー募集、ワークショップ開催</li> <li>■ 研究施設の一部を公開</li> <li>■ 「積水ハウス エコ・ファーストパーク」でのワークショップ・親子向けイベント開催</li> </ul>
<b>取引先の皆様に対して</b> お客様満足の実現を通じて共に発展していくために、公正で対等な取引に努め、温かい共存関係を育てます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ <a href="#">「積水ハウス会」「セキスイハウス協力会」組織化</a></li> <li>■ <a href="#">「方針説明会」開催</a>（年1回）</li> <li>■ <a href="#">「取引先評価」実施</a></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 施工現場環境の改善（省力化、職方高齢化への対応）</li> <li>■ 納期確定精度の向上（資材・部材納入に当たって）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 部材表示の改善、部材複合化・プレカット・プレセットの推進</li> <li>■ WEBによる工程表のメーカーとの共有・入力徹底</li> <li>■ <a href="#">CSV戦略③技術開発・生産・施工品質の維持・向上</a></li> </ul>

主なステークホルダーと果たすべき責任	エンゲージメント例	提起されたテーマ例	左記への対応
<p><b>従業員に対して</b></p> <p>従業員が個々の能力を生かし、価値ある仕事を通じて創造的成長を遂げられるよう、多様な一人ひとりの個性を尊重し、公正かつチャレンジ精神をはぐくむ職場環境・制度を整備し、ESの向上を図ります。</p>	<p><a href="#">社内公募制度</a>  <a href="#">社内資格制度</a>  <a href="#">ヒューマンリレーション研修（年1回）</a>            ガバナンス意識調査（年1回）  <a href="#">労働安全衛生マネジメントシステム</a>            グループ誌発行（年6回）</p>	<p>女性活躍の推進            ワーク・ライフ・バランスの推進            障がい者雇用の促進</p>	<p><a href="#">CSV戦略⑤ダイバーシティの推進と人材育成</a></p>
<p><b>株主・投資家の皆様に対して</b></p> <p>健全な成長による企業価値の向上と株主・投資家の皆様への利益還元のために、社会的価値の高い企業であり続けることを目指し、公正で透明性の高い企業経営を行います。</p>	<p><a href="#">株主総会「ビジネスレポート」（年2回）</a>、<a href="#">「Annual Report」（年1回）発行</a>  <a href="#">「IRニュースメール」配信</a>  <a href="#">株主優待贈呈制度</a></p>	<p>経営戦略、経営計画に関する分かりやすい開示</p>	<p>経営説明会開催            工場等の施設見学            個別面談実施</p>
<p><b>地域・社会に対して</b></p> <p>地球環境を守りつつ、すべての人が人間らしい豊かな暮らしを実現できるよう、地域の文化と豊かさをはぐくみ、住宅企業らしさを生かして、社会還元、協力と参画に努めます。</p>	<p><a href="#">「積水ハウスマッチングプログラム」</a>  <a href="#">障がい者の自立支援</a>  <a href="#">NPO法人キッズデザイン協議会への協力</a>  <a href="#">NPO法人西山外三記念すまい・まちづくり文庫への協力</a>  <a href="#">公益信託「神戸まちづくり六甲アイランド基金」</a></p>	<p>安全・安心な暮らし            防犯、防災につながるまちづくり</p>	<p><a href="#">コミュニティ形成支援（ひとえん）</a>  <a href="#">災害時の復旧支援体制構築</a>            防災未来工場化計画  <a href="#">新入社員による被災地復興支援活動</a></p>
<p><b>共通項目</b></p>	<p>コンプライアンスの徹底、環境配慮の徹底、説明責任の遂行</p>		

### ステークホルダーエンゲージメント

## 「サステナビリティレポート」の発行

環境報告書「ECO WORKS」に社会・経済面の情報を充実させ、2005年から持続可能性報告書「サステナビリティレポート」として発行しています。サステナブル社会の実現に向けた積水ハウスグループの取り組みをご理解いただくとともに、取り組みのさらなる向上を目指して社会とコミュニケーションを図ることが目的です。

サステナブル社会の実現に向けた当社グループの取り組みをご理解いただくとともに、取り組みのさらなる向上を目指して社会とコミュニケーションを図ることを目的に、持続可能性報告書「サステナビリティレポート」を発行しています。

「サステナビリティレポート2016」では、GRI（Global Reporting Initiative）ガイドライン第4版の特定標準開示項目における46側面から19側面に絞り込み、具体的なCSR活動レベルで束ねた六つの「CSV戦略」を開示しています。

4万5千部発行している「サステナビリティレポート」本冊子のうち、約2万3千部は、当社グループ全従業員へ配布しています。従業員一人ひとりが自社グループのCSRや環境への取り組みとその課題について理解を深める必要があるとの考えによるもので、「サステナビリティレポート」はそのための重要なツールと位置付け、活用しています。

また、「サステナビリティレポート」で扱うテーマは広範囲にわたるため、WEB版で網羅性を持たせて幅広く、冊子版では特に重要と考える活動にテーマを絞って紹介しています。さらに、英語版や中国語版、日本語版ではお客様向けに別冊を発行し、より幅広いステークホルダーに当社の取り組みを紹介しています。

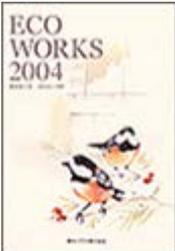
### ■ これまでの取り組み

1999年	「環境未来計画」を発表
2001年	環境報告書「ECO WORKS」の発行を開始
2005年	「サステナブル宣言」の発表を受け、環境面だけでなく、社会・経済面の情報公開を充実させ、持続可能性報告書「サステナビリティレポート」として発行開始
2013年	「サステナビリティレポート別冊」の発行を開始。特にお客様の関心が高く、重要性の高い活動に絞り込んで編集
2014年	CSRを事業活動と統合し、さらなるレベルアップを図るために重点的に取り組む五つの重要なテーマを特定し、「CSV戦略」として開示
2015年	「海外への事業展開」を六つ目の「CSV戦略」として特定
2016年	GRI（Global Reporting Initiative）ガイドライン第4版（G4）の「中核」に準拠

## ■ 社外からの評価

レポート名	主催	受賞
「サステナビリティレポート 2016」 	環境省、一般財団法人地球・人間環境フォーラム	「第20回環境コミュニケーション大賞」 環境大臣賞（持続可能性報告大賞）
	審査委員会からの評価 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>同社の事業モデルはグループで一貫した製品・サービスを提供する点にあり、「共有価値の創造に向けたビジネスモデル」はCSV戦略をよく説明している。内容的には、住宅業界としての中長期的な社会課題・環境問題への対応が十分踏まえられている。ZEH普及、リフォーム事業拡大などの事業戦略、事業モデルの中で調達やサプライヤー・パートナーとの協働方針も特筆すべき点である。</p> <p>ダイバーシティは、住宅産業としては優良だが、女性取締役の誕生が待たれる。</p> </div>	

## ■ (これまでの実績)

レポート名	主催	受賞
「ECO WORKS 2004」 	環境省、財団法人地球・人間環境フォーラム	「第8回環境コミュニケーション大賞」 持続可能性報告優秀賞（理事長賞）
	(株) 東洋経済新報社	「第8回環境報告書賞・サステナビリティ報告書賞」 サステナビリティ報告書賞優良賞
「サステナビリティレポート 2006」 	環境省、財団法人地球・人間環境フォーラム	「第10回環境コミュニケーション大賞」 持続可能性報告優秀賞（理事長賞）
	(株) 東洋経済新報社	「第10回環境報告書賞・サステナビリティ報告書賞」 サステナビリティ報告書賞優良賞
「サステナビリティレポート 2011」 	環境省、財団法人地球・人間環境フォーラム	「第15回環境コミュニケーション大賞」 生物多様性報告特別優秀賞（地球・人間環境フォーラム理事長賞）

レポート名	主催	受賞
<p>「サステナビリティレポート 2013」</p> 	<p>環境省、一般財団法人地球・人間環境フォーラム</p>	<p>「第17回環境コミュニケーション大賞」 優秀賞（地球・人間環境フォーラム理事長賞）</p>
<p>「サステナビリティレポート 2014」</p> 	<p>環境省、一般財団法人地球・人間環境フォーラム</p>	<p>「第18回環境コミュニケーション大賞」 審査委員会特別優秀賞（第18回環境コミュニケーション大賞審査委員長賞）</p>
<p>「サステナビリティレポート 2015」</p> 	<p>環境省、一般財団法人地球・人間環境フォーラム</p>	<p>「第19回環境コミュニケーション大賞」 審査委員会特別優秀賞（第19回環境コミュニケーション大賞審査委員長賞） ※3年連続の優秀賞、2年連続の同賞受賞</p>

### 対外活動

## 住環境の質の向上を目指した団体活動および提言活動

わが国の住宅レベルや、住環境の質の向上において、積水ハウスの役割と責任は大きく、多くの業界団体にも所属して、一企業としてだけでなく、住宅業界を先導するさまざまな活動を推進しています。

近年では、サステナブル社会構築と豊かな住生活の実現に向けて、「住生活基本法」の制定やその推進、「長期優良住宅普及促進法」の制定や展開において、立法、行政、経済界などでのあらゆる発言機会をとらえ、積極的に意見を発し、提言してきました。

加えて、再生可能エネルギーの利用促進、長寿命住宅の建築促進による良質な住宅ストック確保などのインセンティブ施策や税制についても、積極的に提言。その結果、住宅資金贈与の非課税枠の拡充や住宅取得にかかる各種減税措置の延長などが実現しています。

### ■ 主な所属団体（2017年1月現在）

---

一般社団法人 日本経済団体連合会

公益社団法人 関西経済連合会（企業法制委員長：当社会長兼CEO 和田 勇）

公益社団法人 経済同友会

大阪商工会議所

一般社団法人 住宅生産団体連合会（会長：当社会長兼CEO 和田 勇）

一般社団法人 プレハブ建築協会（副会長：当社会長兼CEO 和田 勇）

一般財団法人 住宅生産振興財団

一般社団法人 不動産協会

一般社団法人 日本木造住宅産業協会

優良ストック住宅推進協議会[スムストック]（会長：当社会長兼CEO 和田 勇）

エコ・ファースト推進協議会（議長：当社会長兼CEO 和田 勇）

特定非営利活動法人 キッズデザイン協議会（会長：当社会長兼CEO 和田 勇）